

公開研究会 実践発表 【主な内容の紹介】

令和2年2月8日(土) 13:00～15:00

六つの領域の柱を基に、各校の実践に関するポスターセッションを行います。喫緊の教育課題の解決に向けて、参観者の皆様と協議を深めていきます。

大学との連携研究

参加校発表者	宮城教育大学 小田 隆史 宮城教育大学附属小学校 三浦 秋司	宮城教育大学 堀越 清治 高橋 隆子 宮城教育大学附属小学校 佐々木 孝徳	宮城教育大学 吉川 和夫 宮城教育大学附属小学校 渡部 智喜
テーマ	ESDの視点を取り入れた防災教育～震災遺構の活用実践～	探求の対話 P4Cの取組	合唱活動の在り方
主な内容	大学の「311いのちを守る教育研修機構」と附属小学校が連携して取り組んだ実践です。あの日、未曾有の大災害と対峙しながら人々はどのように命を長らえたのか。震災遺構として保存された旧仙台市立荒浜小学校の校舎と荒浜地区の住宅基礎群の活用を通して、子供たちが探究的に学んだ事例を紹介します。	探求の対話であるp4cを用いた取組や実践を発表します。子供たち自らが問いを立て、自分や他者と対話しながら考えを深めていくこの活動は、新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」そのものと言えます。 本校道徳部において取り組んできたこれまでの実践についても紹介していきます。	1.本校の合唱活動に関する位置付け 2.夏、冬の合唱の会について 3.これまで演奏してきた曲について 4.発達段階を考えた選曲(大学との連携) 5.成果と課題について

地域貢献事業

参加校発表者	栗原市立一迫小学校 山口 沙織	加美町立鹿原小学校 大瀧 学	東松島市教育委員会 堀之内 優樹
テーマ	学力向上への校内の取組	附属小の地域貢献事業を活用した、小規模校職員の授業改善の一取組	プログラミング教育・ESD教育への取組
主な内容	児童が主体的に学び合う算数科の授業づくりに取り組んでいる。学習問題や課題設定の工夫、考えを深めたり広げたりする学び合いの工夫を視点とし、授業を実践している。また、中学校区3校での共通実践や、高校生ボランティアによる学習支援などを通して、地域と連携しながら学力向上に取り組んでいる。	本校は、複式学級を含む計5学級、全児童数29名の小規模校である。教職員の人数も少なく、教職員の「多様な考え方に触れる機会や学び合い・切磋琢磨する機会」が少ない。そこで附属小の地域貢献事業を活用し、道徳の授業改善・評価の研修等の取組を行った結果、指導力が向上し、評価の在り方への理解も深まった。	地域素材を生かしたふるさと学習。地域の方々との関わりを通して、地域の魅力を実感できるように取り組んできた総合的な学習の時間での実践を紹介します。また、新学習指導要領実施に向け、附属小学校の先生方を講師に招き、プログラミング教育に関する研修会を実施しました。そこでの充実した学びについても紹介します。

CS(コンピュータサイエンス)

参加校発表者	宮城教育大学附属小学校 大久保 達郎	宮城教育大学附属中学校 浅水 智也	宮城教育大学 安藤 明伸
テーマ	小学校から始めるCS ～小中学校におけるプログラミング・CSの学びの連携～		
主な内容	小学校1年生から6年生まで系統立ててCS(コンピュータ・サイエンス)の学習に取り組んできました。プログラミング的思考を働かせる学習活動を小学校でどのように系統的に実践し、そして中学校の学習につながるのか。附属小・附属中・大学で連携した取組について小・中・大それぞれの立場から紹介します。		

附属4校園連携研究

参加校発表者	宮城教育大学附属幼稚園 小森谷 一朗 宮城教育大学附属小学校 柴生 彰	宮城教育大学附属中学校 西川 洋平	宮城教育大学附属特別支援学校 宮城教育大学附属小学校 川村修弘
テーマ	幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続とは	小中連携と中学校の取組	見る力に苦手さを持つ児童への通級指導教室におけるビジョントレーニングの効果
主な内容	今年度、宮城教育大学附属幼稚園では、「幼児教育の教育課程に対応した指導方法等充実調査研究」から、接続期カリキュラム作りに取り組んでいます。これまでの双方の実践事例、また連携授業の取組から、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続について考えていきます。	小学校と中学校の連携について、教科の連携、行事の連携、教員間の連携の三点について述べます。一点目、教科の連携は「英語の授業」です。二点目、行事の連携は「合唱」を通したものです。三点目、教員間の連携は「小中合同教科部会」を開催したことです。今後も小学校と連携していきたいと考えています。	見る力に苦手さを持つ児童に対して自校の通級指導教室(さぼーとルーム)にてビジョントレーニングを中心とした視覚関連基礎スキルを高めるための通級による指導(自立活動)を週2回のペースで、合計20回実施した。その実践の成果について報告する。

カリキュラム・マネジメント

参加校発表者	宮城教育大学附属小学校 佐藤 俊宏	秋田大学教育文化学部附属小学校 清水 琢	岩手大学教育学部附属小学校 板垣 健
テーマ	これからの時代に求められる資質・能力を育むカリキュラム・マネジメント	自立した学習者を育てる～学びをつなぎ資質・能力を高める～	子供の思いと教師の願いでつなぐカリキュラム・マネジメント～道徳教育と総合的な学習の時間の実践を通して～
主な内容	これまでの研究実績の基、カリマネの三つの側面から3点に視点を当てて、これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方について研究を行ってきました。学校教育目標の具現化、学習の基盤となる資質・能力、現代的な諸課題に対応するための資質・能力の3点について本校の取組を紹介します。	本校研究テーマの具現化に向け、実践研究に取り組んできた成長と課題、今後の方向性について、次の2つの視点から紹介します。 ・自ら選択・決定する学習活動を位置付けた単元・題材構成の工夫 ・自ら学びをつなぐ効果的な省察の工夫	子供の意識が連続するように3つの柱で構成した道徳学習プログラム、育てたい4つの力を中心に据えた総合的な学習の時間の年間指導計画。共に「自己の生き方を考える学習」において、どのようにカリキュラムをデザインしてきたのか、どんな視点でカリキュラムを改善してきたのか、そのプロセスを発表します。

外国語教育

参加校発表者	宮城教育大学附属小学校 今野 ゆき	仙台市栗生小学校 熊谷 礼子 國井 あつ子 吉田 春蘭	仙台市立新田小学校 栗田 理沙
テーマ	小学校英語科における指導と評価の可能性	外国語活動の校内研究の取組	子供たちが主体的に外国語を話したくなる取組
主な内容	平成27年度から文部科学省英語教育強化地域拠点事業を受けて、3年間の計画で小学校英語教育の研究開発に取り組んできました。今回の実践発表では、本校の1～6年生のカリキュラムの紹介や、教科となった5・6年生での指導と評価の在り方として、パフォーマンステストの取組等を発表します。	本校では、「自分の思いや考えをもち、進んで表現できる児童の育成」を目標に校内研究をしています。主に、「PDC Aサイクル理論」を活用した実践、外国語活動専科教諭を中心とした研修体制の構築、国際交流活動や異文化理解教育の推進、近隣校との連携(小・中連携を含む)の強化に取り組んでいます。それらの本校の取組について紹介します。	日々の授業での取組として、学年の先生方や地域の建物が登場する映像教材を作成するなど、身近な題材に焦点を当て、必然性のある場面設定などの例示の工夫を行っている。 また、常駐ALTや英語専科の強みを生かして、休み時間の外国語タイムや朝読みに英語絵本の読み聞かせなど、日常的に英語に親しむ活動を取り入れている。